

小羽山小コミスク通信



令和6年8月23日



中学校区で地域連携を進める

山口県では、小・中学校のコミュニティ・スクールが核となり地域協育ネットの仕組みを生かしてさまざまな団体等と連携・協働し、社会総がかりで子どもたちの学びや育ちを支援する取組「やまぐち型地域連携教育」を推進しています。

桃山中学校区でも、地域のさまざまな立場の大人たちが「誇りのもてる児童生徒の育成」という共通目標を掲げ、それぞれの発達段階の子どもたちを広い視野で見守り支援していくとともに、子どもを中心として各校種の学校・家庭・地域の絆を深めるための取組を進めています。

拡大学校運営協議会 兼 小中合同研修会（8月5日）

桃山中学校区の各教員、そして、各校学校運営協議会委員の皆さんが新川小学校に集まり、桃山中学校区をワンチームとして中学校区の子どもたちを育てるための連携・協働について考える拡大学校運営協議会を開催しました。

前半は県・市教委から地域連携教育に関わるコミュニティ・スクールや地域協育ネットの連携や先進的な取組事例などについて説明があり、後半は各校の教員・学校運営協議会委員が入り混じって「ふるさとを愛する子どもを育てるために私たち大人ができること」というテーマで熟議（多くの当事者が「熟慮」と「議論」によって問題の解決を目指す対話）をおこないました。初対面のメンバーもすぐに打ち解け、子どもたちが将来の桃山中学校区の担い手として成長していくために大人が子どもを育てる「当事者」として何ができるか、活発なアイデアや情報を共有したり、大人の役割を再確認したりすることができました。



熟議の中から（一部）

- ・ 郷土料理や特産物、その地域で行われている行事や自然のものなどにも関心を持ち、子ども自らが調べることで地域を知り、地域を愛する気持ちを育てていきたい。
- ・ 子どもの願いをすくい上げる場があるとよい。
- ・ 地域を知っている、地域の遊び場を網羅している、地域の魅力がまず語れる、といった「地元マスター」を育てたい。